

【 2025 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

園名 聖隷こども園桜ヶ丘

目的：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日 2026 年 1 月 20 日

評価者 園 名 聖隷こども園こうのとり東

役 職 園長 氏 名 平野 春江

評価者 園 名 聖隷こども園こうのとり富丘

役 職 園長 氏 名 二村 郁枝

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

どのクラスでも子どもたち一人一人が受け入れられ、心地よい環境の中で保育・教育が行われていた。大人のペースに合わせるのではなく、個々に合わせたリズムで生活が流れており、一人一人が自分らしさを発揮しながら過ごしている。また、子どもの声を取り入れながら保育が展開され、一人一人の存在を認めながら保育を行っている様子が見られた。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

子どもたち一人一人と視線を合わせながら、丁寧に関わる様子が見られた。生活の中では急かしたり、大きな声をかけたりせず、個々のペースを大切にしながら過ごす等、子どもが主体となり生活していた。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

個人情報については、施錠できる場所（事務所）にて適切に取り扱っている。
また、入園時に保護者へ説明し、個人情報に関する同意書を得て保管している。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

園への意見や苦情については、園長を中心に主任、担任で迅速且つ適切に対応している。
丁寧な対応に努めている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

看護師と一緒に園内の感染防止及び感染拡大防止に努めている。
対策とあわせて、職員との情報共有や指導も適切に行っている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

マニュアルの見直しや、職員の勉強会、訓練の実施等、安全管理への取り組みを行っている。
特に、安全な食事の検討（食べさせ方や配置、食事形態移行時の確認事項等）については、重点的に取り組んでいる。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

定期的に点検を行い、本部とも連携を図りながら適切な管理を行っている。
修繕が必要な箇所については速やかに確認し、必要に応じて修繕依頼を行う等、適切に対応している。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

花や観葉植物が飾られており、明るく清潔な印象である。
また、清掃や整理整頓も行き届いており、気持ちよく生活できる環境が整っている。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

手作りの玩具や季節に合わせた制作の準備等、子どもたちの年齢発達や興味関心に応じた環境が整えられている。玩具は子どもたちが自由に手に取って遊べるように配置されており、作った物を展示したり取り置いたりできる場所が設置されている等、子どもの気持ちに寄り添った環境が整えられている。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

どのクラスでも目の前の子どもたち一人一人の年齢発達や興味関心に合わせた環境や保育が展開され、丁寧な関りが見られた。乳児クラスでは、生活の中で子どもの意欲に寄り添いながら援助していたり、子どものペースで生活できるようゆとりある時間設定の中で遊びが保証されていたりするなど、子どもを急かすことなく待つ姿勢が印象的であった。幼児クラスでは、大人主導ではなく、子ども自身が選んだり考えたりしながら心地よく過ごせるよう配慮されていた。

【全体を通して】

子どもたちが主体的に過ごせるよう、職員間で連携を図りながら保育を行っていた。配慮が必要な児についても担任間で共有しながら、クラスだけではなく園として支援しており、温かく受け入れられていることが感じられた。

園内の安全管理については園長、主任を中心にマニュアルの見直しと併せて、配置や対応の仕方等を現場で検討しながら、安心して過ごせるよう努めている。子どもたち一人一人が安心して、自己発揮しながら過ごせるよう園全体で取り組んでいる様子が感じられた。